



社会福祉法人 心耕福祉会(宮崎県)

活動テーマ ソダツバヒカリ

～ 私たちの未来のためにすべてが繋がっていく～

活動の概要

ソダツバヒカリとは、みんなと一緒に<育つ場>です。幼保連携型認定こども園「ひかりの森こども園」を中心に、学童期の長期休暇を有意義にすべく、異年齢で学びあう「寺子屋」、幼児、小中学生、親、シルバー世代が食事を提供する側、される側という垣根をなくし、空間と時間を共有する「こども食堂」、不登校児やハンディキャップを持つ子も含めて、放課後の学習支援や療育活動を行う「学童・放課後支援事業」のほか、貧困層への食品支援、地域サロン等の事業などを行い、地域の子どもと大人、みんなが関わって、みんなで作って、みんなで作る事業を展開しています。

「こども食堂」では、不登校児、ハンディキャップを持つ子どもが支える側に回ることによって自分の存在意識を高めることができるほか、「学童・放課後支援事業」では、異年齢児の縦の関係、横の関係が成り立ち、コミュニケーション能力の発達を促し、協力する心が育まれています。



地域の方に提供していただいた田んぼで、稲刈りを終わせた学童の様子。

活動の経緯

ソダツバヒカリは
7つの施設の
集合体

ソダツバヒカリは、7つの施設の集合体。「ひかりの森こども園」を中心に、放課後児童クラブ「キッズリターンクラブ」、放課後児童デイ「いっほのひかり」、「寺子屋」、「こども食堂」、「子育て支援講座」、「ピオトープガーデンカフェ」があります。



学童・放課後支援事業。支援が必要な生徒と一般の生徒が協力しながら焚火で焼き芋を作ります。

お互い様の
心を育む
「寺子屋」

「ひかりの森こども園」の屋敷敷園長が住職を務める光明寺で15年前に始めた寺子屋。メディア依存の生活から離れ、コミュニケーションの必要性を感じ、お互い様の心を育みます。寺子屋を卒業した学生たちが「先生」として支援する側に回っています。



寺子屋で自主的に夏休みの課題に取り組む子どもたち。静寂の中で学びあう関係性を育みます。

こども食堂
「りんりん」は
子どもから高齢者まで

月2回開くこども食堂「りんりん」は、三股町の傾聴ボランティア団体「すずむしの会」が中心となり実施しています。貧困世帯の支援のほか、地域の高齢者の孤立を防ぐ狙いもあり、子どもたちと高齢者の交流の場として機能しています。



こども食堂の様子。地域の子どもたち、高齢者、ボランティアで餅をつき、丸めます。

参加者の声

- 支援学級の友だちも、普通学級の友だちも、放課後は一緒に遊べて楽しかった。もっともっと遊びたい!(小学2年)
- 地域の方に貸していただいた田んぼで収穫したお米はおいしく、大切に食べなければと感じた。(小学5年)
- こども食堂で調理や配膳を手伝い、中学生でも困っている人を助けることができることを実感できました。人の役に立つことを自分たちでもやっていきたい。(中学3年)
- こども食堂に来ると、小学生、中学生、子育て中のパパ・ママ、赤ちゃんと同じ空間でご飯を食べられるのはうれしくもあり、楽しみな日です。(地域高齢者)

3つの工夫

進め方の工夫

ソダツバヒカリの中心となる<アソブバ>、<マナブバ>、<イノチノバ>の考え方を理解しあいながら事業を進めることで、すべての事業が協力しあいながら進んでいます。子どもたちにも支える側に回ってもらい、社会とのつながりに希望が持てるようにしています。

連携の工夫

学習支援、子育て支援、貧困世帯支援、発達支援、放課後児童支援、地域シルバー世代支援のメンバーが横のつながりで情報共有できていることで、スムーズな事業展開が可能となっています。問題解決の方向性を利用者に提示できるよう連携を行っています。

継続の工夫

一つの地場でお互いの事業を支援しあいながら取り組んだり、支えられた人が支える側に回ったりして、途切れない連携ができつつあります。また、支援者が疲弊し、事業が途切れることのないよう、外部支援事業者の拡充にも努めています。

将来の活動の方向性

発達障害支援など専門性を持つ支援団体の協力を得ながら、事業内容を充実させていく予定です。また、各事業の連携を深めながら、地域から社会へ視野を広げるような新しい事業の計画も行っていきたいと考えています。